

毛の有無

1. イモムシ・毛虫

毛虫といえばガの幼虫です。シャクガの幼虫のシャクトリムシやカイコは毛がなく、イラガの幼虫は棘を持っています。イモムシという呼称はサツマイモの葉を食べるスズメガの幼虫(2018年北栄町の砂畑のイモに大発生)を指したものが語源ですが、チョウやガの毛がない幼虫(広辞苑)を指すように変わってしまいました。ハチの子やカブトムシの幼虫もイモムシの仲間入りでしょう。写真のハバチ(葉蜂の意)やハムシ(葉虫の意・甲虫の仲間)も毛がなくイモムシです。

毛に毒があるものとなないもの、棘に毒があるものとなないもの、種によって様々です。共通点はありません。体験で覚えるしかありません。毛の長さも様々で、生き方の違いによって分かれたものと思われる。

約0.2mmの昆虫の表皮はタンパク質とキチンの複合体からできており、毒液はその下の一層の細胞層から分泌されたものです。毛もそこにある生毛細胞から作られたもので、脱皮の際には表皮とともに離脱するようになっています。



ヤガの仲間の幼虫
毒なし



イラガの幼虫
毒あり



クワコの幼虫
(カイコの原種)



ヨウロウヒラクチハバチの
幼虫



サンゴジュハムシの
幼虫

2. ウルシとハゼの実

打吹山に生育するウルシはヤマウルシであり、漆液をとる中国原産のウルシは生えていません。ハゼはヤマハゼの他に木蠟を取る東南アジア原産のハゼノキ(トウハゼ)の2種が生育しています。

打吹山ではハゼノキは高木ですが、ヤマウルシとヤマハゼは樹高5m前後で、幹も太いものはありません。ヤマウルシとヤマハゼはよく似ているのですが、写真のように小葉の形がヤマウルシはずんぐりなのに、ハゼはスマートです。比較してみれば判断できるでしょうが、単独では難しいかもしれません。もっ

とも明確に差が見られるのは、果実の毛の有無です。ヤマウルシの果皮には短い毛がびっしりとあり、ハゼはどちらも毛がなく光沢があります。写真の果実は、ヤマウルシ、ヤマハゼともに8月12日の撮影ですが、ヤマウルシはすでに熟して果皮がめくれ、白い種皮が見えているものもあります。熟期も3ヶ月くらい違います。結実を確認しておいた木で、葉形を覚えてください。

毛の有無はわかりやすいのですが、弱点があります。ヤマウルシもヤマハゼも雌雄異株なので、雄株は結実しないので、果皮の毛は使えません。若木も同様です。



ヤマウルシの果実



ヤマハゼの果実

ウルシといえはかぶれです。ヤマウルシ、ヤマハゼともにかぶれますが、自身はかぶれない体質のため、どちらが強いか体験していません。数十年前の子どもはよくかぶれていましたが、最近話題になりません。それだけ山で木を切ったりしていないということでしょう。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2022)



左からハゼノキ、ヤマハゼ、
ヤマウルシの小葉